

西播磨地域の

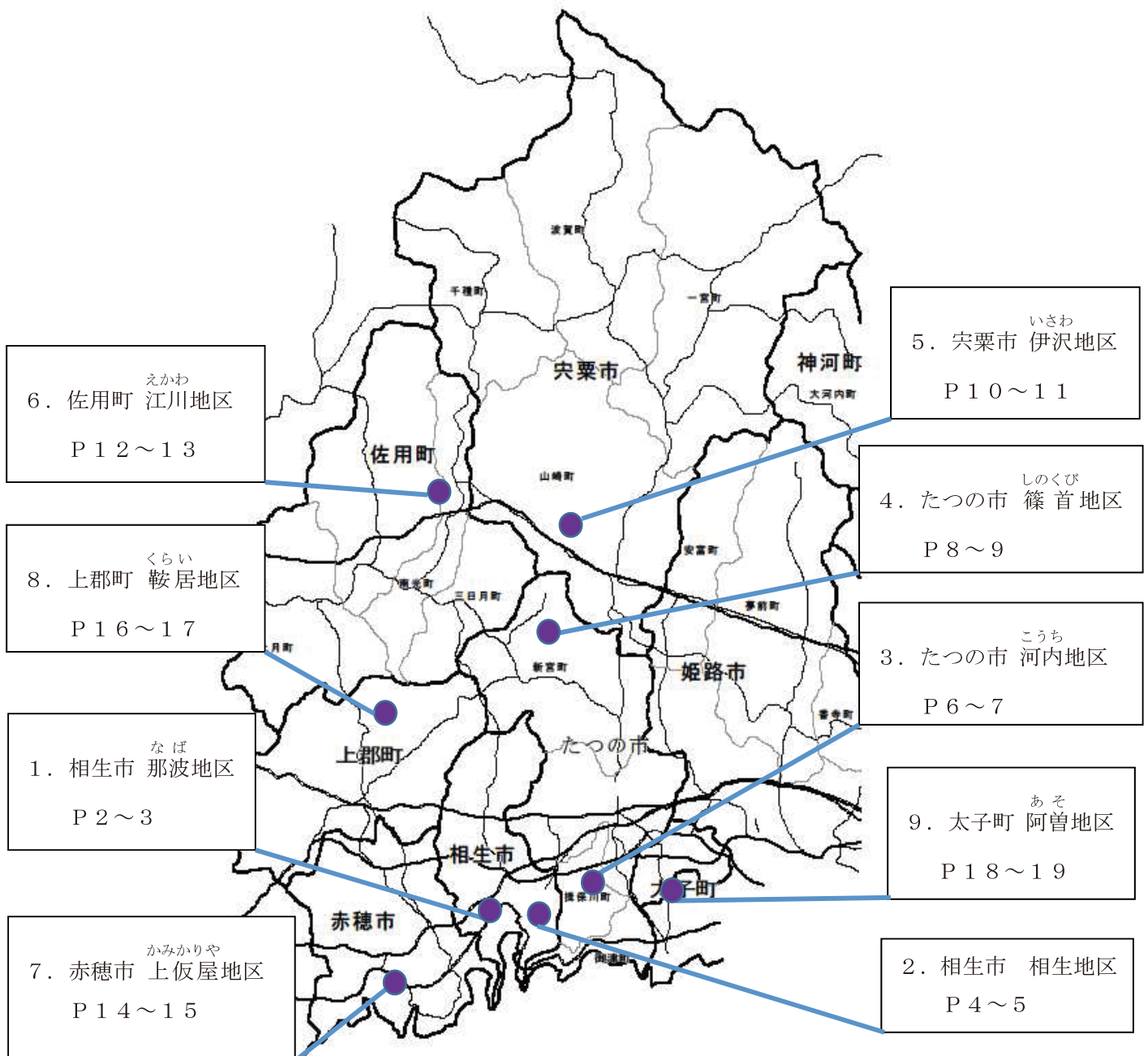


高齢者が安心して暮らせる 地域づくり活動の紹介



目 次

1.	相生市	那波地区	(那の花会)	2 ~ 3
2.	相生市	相生地区	(NPO 法人あいあいひろば) . . .	4 ~ 5
3.	たつの市	揖保川町河内地区	(新鮮組こだわり隊)	6 ~ 7
4.	たつの市	新宮町篠首地区	(篠首支えあいネット)	8 ~ 9
5.	宍粟市	山崎町伊沢地区	(高齢者見守り隊ひだまり) . . .	10 ~ 11
6.	佐用町	江川地区	(玉落学園・百歳体操部)	12 ~ 13
7.	赤穂市	上仮屋地区	(わいがやサロン)	14 ~ 15
8.	上郡町	鞍居地区	(ふるさと村づくり協議会) . . .	16 ~ 17
9.	太子町	阿曽地区	(阿曽ふれあいサロン)	18 ~ 19



■ はじめに

兵庫県では、2020（平成32）年頃の西播磨地域の目指すべき姿を描く、「西播磨地域ビジョンー光と水と緑でつなぐ～元気・西播磨～」を策定しています。私たちが所属する「西播磨地域ビジョン委員会」は、西播磨地域ビジョンの実現に向け、知事から委嘱され、率先して実践活動を行う、7チーム、60名の委員で構成されています。私たち「生活安全推進チーム」は、「住みなれた地域で支え合って共に生きる」を目標に、西播磨地域の安全安心に貢献したいという強い思いを持った11名のメンバーで活動しました。

私たちは、今後ますます進む高齢者等の孤立、無縁化に着目し、「高齢者が安心して暮らせる地域づくり」を実践している各市町の代表的な団体やグループを取材し紹介する活動を行いました。

本冊子では、私たちが訪問させて頂いた「高齢者が安心して暮らせる地域づくり」を実践している地域の団体やグループの活動をご紹介します。

少子高齢化問題が提起されて以降、兵庫県、各市町でも諸々の施策を立案実施していますが、大きな潮流は変えられず、中でも私たちが居住する西播磨地域は人口の減少、高齢者率ともに悪化傾向にあります。

しかし、その中であって、各地域で「支え合い・高齢者見守り」活動、更には「買い物難民・通院難民」対策、閉じこもり対策としての「サロン活動」、「健康づくり百歳体操」の推進など幅広い活動が行われています。

今回の視察・取材を通して、各地域、地区で環境の違いによる対策や活動の形は異なるものの、すぐ近くの住民が互いに助け合わなければ高齢者が安心して暮らせる地域づくりはできないと感じました。

この冊子が県民、地域の皆さんの参考としてお役に立てば幸いです。ご協力いただきました関係各位にはこの書面にてお礼申し上げます。

第8期西播磨地域ビジョン委員会 生活安全推進チーム



視察市町地区	相生市那波地区	視察年月日	平成28年12月6日
組織・団体名	「那の花会」	参加者	6名
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年6月、那波福祉協議会からの声掛けで「那の花会」として発足。 ・参加条件:那波地区の65歳以上の住民を対象にしている。 ・参加人数:男性(参加15人/登録20人)女性(参加30人/登録80人) ・支援体制:スタッフ3人 ボランティア25人(6班編成) 		
内容	<p>◆ 活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 歌に合わせて体操を行う。 2) 地域の方が行っているサークル活動(寸劇、踊り、大正琴など)を鑑賞する。 3) 祭りや作品展など地域行事の手伝いを行う。 4) ボランティア会員と参加者で季節感を取り入れたレシピを考え、菓子、弁当を作っている。 5) 食事会には「男の料理教室」メンバー15人も参加する。 6) おやつの際は100円 食事の際は200円徴収している。 		



活動状況について説明を受ける



左から柴田さん奥田さん香山さん



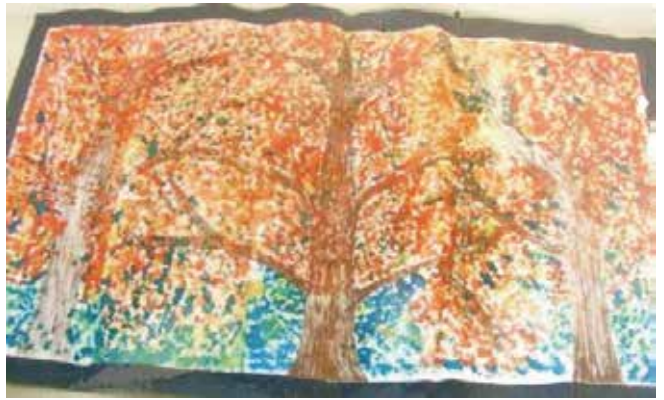
メンバーとの活発な意見交換



女性スタッフの皆さんと視察メンバー



包装紙を切り合わせて画いた富士山の絵



参加者の皆さんの手形で描いた紅葉の絵



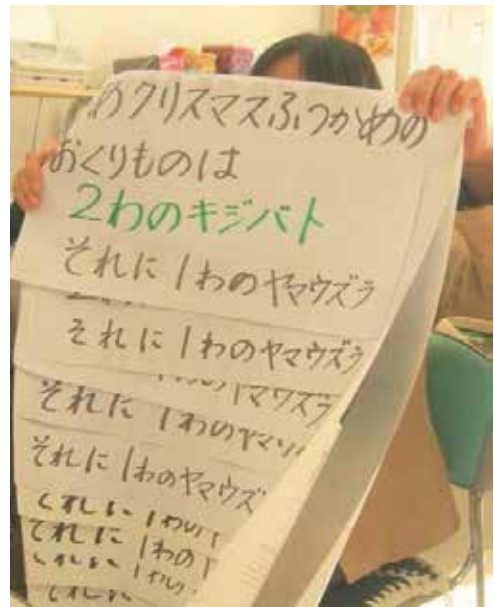
参加者の皆さんが作った帽子型マグネット



手芸作品 (アクセサリー)



会員の皆さんの笑顔に苦労も明るい笑顔に



「クリスマスの12日」合唱用の歌詞シート

感想

- ①スタッフが会員に金銭的負担をかけず楽しめるように工夫し運営していた。
- ②会員が受動的ではなく能動的に参画する仕組みが良い。
- ③会員とボランティア、スタッフが共同作業を行う事で一体感を持った活動ができている。
- ④地域行事、文化サークルとの交流、ボランティア・スタッフとの連携が計画的に企画されており、活動の成果が「祭りの灯籠」や「作品展」等で地域の方にも評価される仕組みが良い。

視察市町地区	相生市相生地区	視察年月日	平成28年12月12日
組織・団体名	「NPO法人 あいあいひろば」	参加者	6名
概要	<ul style="list-style-type: none"> 平成9年、相生湾部分埋め立て工事を機に幅広い年齢層の人が集まる場が欲しいとの地元要望を受け、平成18年空き店舗を改装し「NPO法人あいあいひろば」を開設。 正会員28人、協力会員20人、地域外会員11人、賛助会員1人で運営。 セルフコーヒー等を常設し地域コミュニティの場として活用されている。 		
内容	<p>◆ 活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 火曜日～金曜日の10時～17時まで自由に利用できるが飲酒・喫煙・カラオケは禁止。 2) 1階の地域イベントコーナーには昔の風景写真、資料を展示している。 3) 定期的に行う落語会には1回に80人の集客があり、2階和室は満席となる。 4) 百歳体操は3団体30人が参加、1階の土間部分で行っている。 5) 幼稚園児、小学生を対象に地元オリジナル版、「おおのまちすごろく」や「相生懐古イロハかるた」を奨励、2月には「かるた大会」を行っている。 6) 毎年8月7日に七夕祭りを行い「ビンゴゲーム」や「そうめん流し」を行っている。 7) 広報活動として「相生地区まちづくりニュース」を年2回発行している。 <p>◆ 有償事業</p> <ol style="list-style-type: none"> ①電灯、電池の交換②自転車のパンク修理、タイヤ交換③障子、襖、網戸の張り替え④家具の簡単な修理等を安価で実施している。 		



柴田理事から状況説明を頂く



展示・販売コーナーとセルフ飲み物



幼稚園児が描いた絵を障子に張り付けた



相生懐古イロハかるた



おおのまちすごろく

相生懐古イロハかるた(例)

『も』

「燃えてしまった海老名の屋敷」

*明治27年、突然の出火で海老名氏の
の広大な邸宅は全焼した。

『る』

「留守の焼かれた海老名のお城」

*南北朝時代、赤松円心の要請により
白旗城へ加勢に出た隙に海老名
氏の居城、大嶋城が攻められ落城
した。

『お』

「大石も時々泊まった海老名邸」

*昔、相生が忠臣蔵で有名な大石内
蔵助の私領だった事を伝えている。



感想

- ①地域の方が気楽に立ち寄れ、地元の歴史や文化を子供達に伝える場とする事で、当初の住民要望を満たしていると感じた。
- ②有償事業を通じて、日頃から何でも気軽に相談できる雰囲気づくりが出来ており、個別の安否確認にも繋がっていると感じた。

視察市町地区	たつの市揖保川町河内地区	視察年月日	平成29年1月18日
組織・団体名	「新鮮組こだわり隊」	参加者	5名
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・河内地区は、たつの市揖保川町の南部に位置し、三方を山に囲まれた田園地帯。 ・戸数約550戸、商業施設もなく高齢化と後継者不足により耕作放棄地が増加している。 ・平成18年、地域の農産物販売促進、生産拡大による地域農家の振興を目的に「新鮮組こだわり隊」を結成した。 ・会員数106人(団体14、個人92人、内15人が推進委員) 		
内容	<p>◆ 活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の元気拠点づくり、高齢者福祉への貢献、地産地消の推進を運営目的とする。 2) 拠点となる直売所は毎週、日、水、金曜日に地元産の野菜、果物、鮮魚(室津港直送)、食材、花卉等を販売し、地域外からの客も多い。 3) 買物弱者対策と高齢者の安否確認を兼ね無料宅配サービスを実施中。 4) 平成26年8月から、軽トラによる青空市を開始。幼児を持つ若い母親にも好評。 5) 平成27年9月、たつの市と「地域見守り活動に関する協定」を結び「高齢者買い物サポート事業者」の登録を行った。 6) 平成27年10月から保冷車による移動販売を4箇所で開催中。 7) 直売所へ農産物を持ち込めない高齢者の為に受け取りに行く活動も行っている。 8) 地元産の野菜は学校、幼稚園、福祉施設で給食用食材に活用し地産地消に努めている。 		



横田前会長と井上会長から説明を受ける



レジでの会話も活発に！



生産者の顔が分かる安全・安心・新鮮な地元野菜



各種食材（鮮魚含む）が揃っている



「新鮮組こだわり隊」の移動販売サービス



月1回行われるイベント情報の掲示板



道路わきに立つ案内看板



中央左から横田前会長、井上会長と視察メンバー

感想

- ①地域の期待や要望に応え地道な努力で結成当初の目標を実現している組織団体。
- ②活動の基本理念と営業実績のバランスが良い。常に地域住民やお客さんの立場に立ってサービスを提供している姿勢がうかがえる。
- ③課題は、特産品(揖保川トマト、トウモロコシ、ブドウ)の安定供給の実現。

視察市町地区	たつの市新宮町篠首地区	視察年月日	平成29年1月19日
組織・団体名	「篠首支えあいネット」	参加者	7名
概要	<p>・篠首地区は、たつの市新宮町の北部に位置し、篠首川沿いに南北約3Km、東西約300mの細長い地形に145戸、499人、65歳以上の高齢者164人(高齢者率32.9%)が居住する地区。</p> <p>・平成26年4月、誰もが支えあい安心して心豊かに暮らしていける地域づくりを目指し、「篠首支えあいネット」を設立した。</p>		
内容	<p>◆ 活動内容</p> <p>1)「支えあいネット」の基本となる要支援者の情報台帳を作成した。</p> <p>2) 台帳をもとに10エリアに区分した住宅地図に、一人暮らし高齢者等、要支援者の所在を識別標記し「支えあいマップ」を作成した。</p> <p>3) 体力づくりと閉じこもり対策として、75歳以上の方を対象に毎週木曜日、公民館で「健康講座」と「いきいき百歳体操」を実施中。</p> <p>4) 住民が参加しやすいように公民館内のバリアフリー化、トイレの改修、無料送迎バスの手配などを行い環境整備を行った。</p> <p>5)「支えあいマップ」は2年に1度見直し更新作業を実施している。</p>		



毎週木曜日に行われる「健康講座と百歳体操」



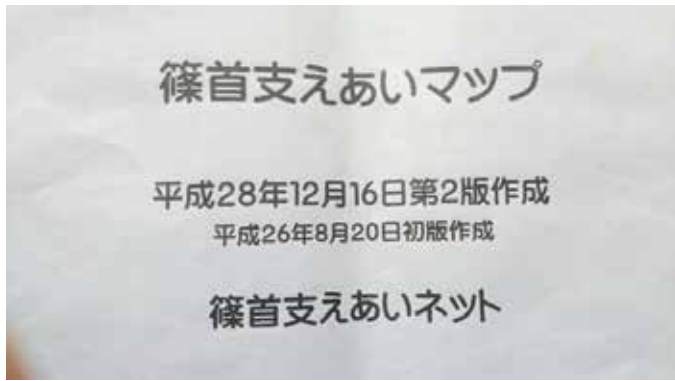
「笑いは百薬の長」健康講座の服部所長



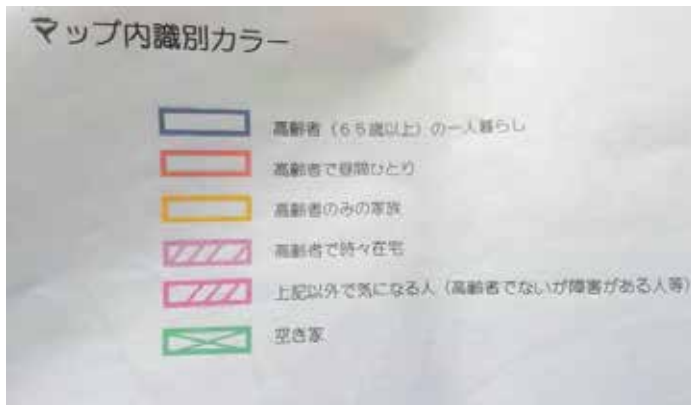
チームメンバーも一緒に百歳体操を！



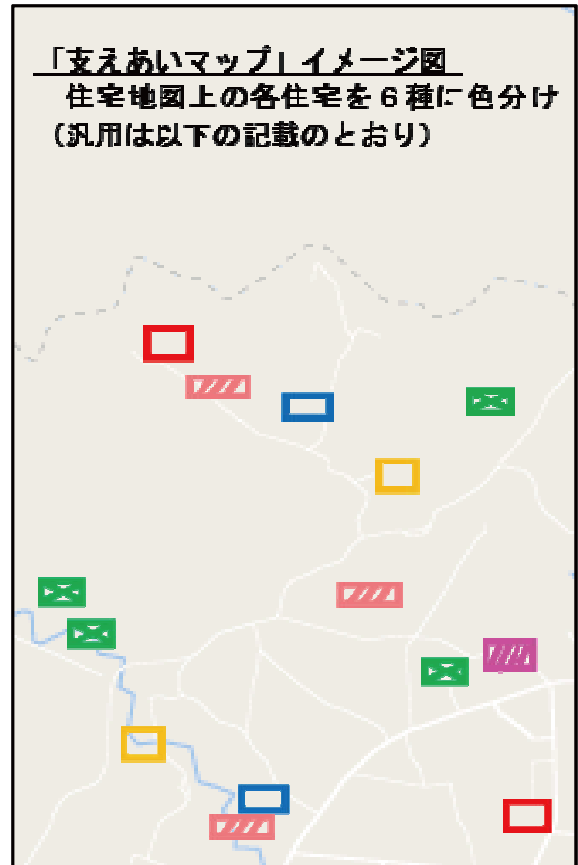
今日で85回目の百歳体操



「支えあいマップ」は2年毎に更新する



「支えあいマップ」の識別カラー



「支えあいマップ」を安否確認に活用



活動経過を拝聴する



篠首支えあいネット役員の皆さんと視察メンバー
前列左から服部所長、木南義孝氏、木南正巳自治会長、後列左から北林務書記、木南哲也副会長

感想

- ①山あいの南北に細長く点在した集落環境である事からそのまま放任、放置すれば住民間のコミュニケーションも弱く、最悪の事態を招く恐れもあったと思われるが、危機意識を共有したリーダーの英知と住民の理解と協力により、自分達が住む場所を住みやすくした成功例だと感じた。
- ②思いつきではなく、継続して運営できる仕組みがマネジメントされていると感じた。

視察市町地区	宍粟市山崎町伊沢地区	視察年月日	平成29年2月13日
組織・団体名	高齢者見守り隊「ひだまり」	参加者	6名
概要	<p>・平成26年、宍粟市山崎町の市街部にある伊沢地区30世帯と大歳(ダサイ)地区100世帯の2つの地区で、一人暮らし高齢者等の孤立を防ぐ事を目的に高齢者見守り隊「ひだまり」を結成し活動している。</p>		
内容	<p>◆ 活動内容</p> <p>1) 見守り隊員は21人、内役員10人(男性・自治会役員3人)女性中心に構成されている。</p> <p>2) 見守り隊員は隣保ごとに配置され、訪問や安否の確認、相談事、手伝いを行っている。</p> <p>3) 結果は「見守りシート」に記録している。</p> <p>4) 「支え合いマップ」を作成し個別事情を把握しているが、個人情報の取り扱いは慎重に行っている。</p> <p>◆ 拠点事業</p> <p>1) 伊沢公民館に「ひだまり広場」を開設し、70歳以上の方の居場所づくりを目的に交流会、講演会、音楽鑑賞などのサロン活動を行っている。</p> <p>2) 隣接する泉龍寺の協力もあり花見、月見の会、演奏会、花信風、影絵など子供も含め地域行事として楽しんでいる。</p>		



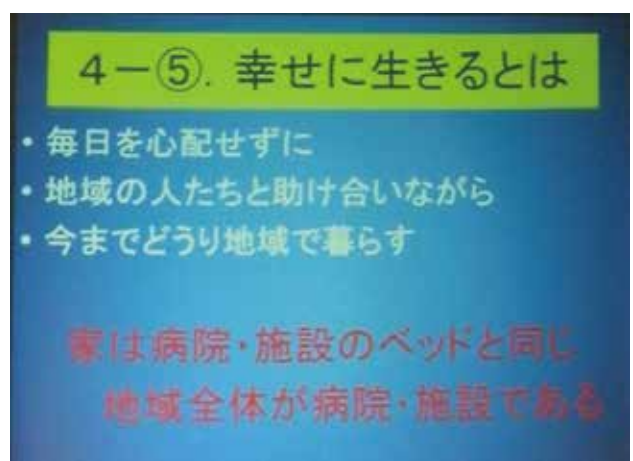
意見交換する視察メンバー



井口みさゑ代表（左から2人目）と見守り隊員



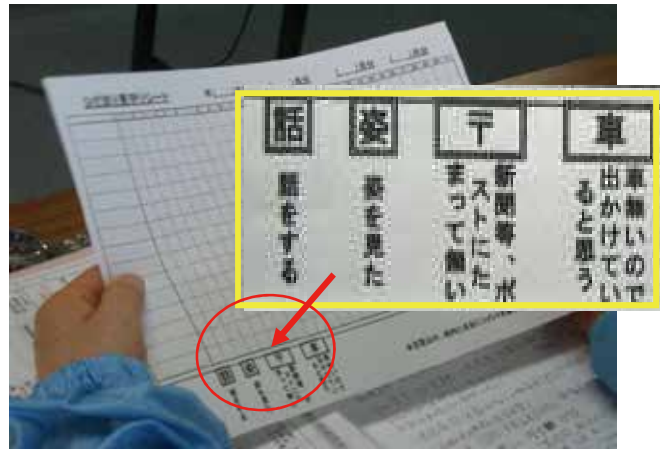
パワーポイントによる活動内容報告



「家は病院・・・地域全体が病院・施設である」



チームの活動と他の地域視察について紹介



「ひだまり見守りシート」(凡例を拡大)



美味しいデザートを頂きながら意見交換



公民館 1 階の「ひだまり広場」



「ひだまり広場」の皆さんと視察メンバー

感想

- ①女性主体で活動しているグループ。女性特有の細かい気遣いが感じられる。
- ②隊員の資質向上を目的に教育研修を積極的に行っている。
- ③活動を通じて自分自身も成長するという強い信念が感じられた。
- ④「変えられない物を受け入れる。変えられる物を変えていく」精神が良い。
- ⑤当初、活動に否定的だったが急病で倒れ隊員に助けられた。以降は隊員として活動に参加されている方の意見は貴重だった。

視察市町地区	佐用町江川地区	視察年月日	平成29年3月27日
組織・団体名	玉落学園・百歳体操部	参加者	9名

概要

- ・江川地区は、佐用町の北西部に位置し、北と西は岡山県に隣接する。
- ・玉落川沿いの(旧)江川小学校区11自治会で構成され約400戸、約1,000人が居住し高齢化率45%の集落。
- ・少子高齢化による過疎化に対応する為、「江川地域づくり協議会」を立ち上げた。その中で玉落学園・百歳体操部として活動している。

内容

◆ **活動内容**

- 1) 玉落学園・百歳体操部は、「江川地域づくり協議会・まちづくり文化部」の中に位置付けられている老人クラブを前身とする組織で、他に、蔬菜部、料理部、工芸部、手芸部、生花部が活動している。
- 2) 百歳体操部は、「認知症予防と寝たきり予防により、一日でも長く元気に我が家で暮らす事」を目的に「いつもニコニコ仲間がいるから続けられる」をモットーに活動している。
- 3) 毎週月曜日(夏は8時30分、冬は9時から)1時間半実施。①頭の体操20分、②百歳体操40分、③お茶会(情報交換、お喋り)20分行っている。
- 4) 地域に店舗や病院が無い為、買い物難民、通院難民対策としてミニバス「江川ふれあい号」(10人乗り)を自主運用している。日に4回運行、始発は前日予約。他は当日の1時間前で可能。



毎週月曜日に行われる「認知予防(脳の体操)」



「頭の体操」シート



毎週月曜日に行われる百歳体操



チームメンバーも百歳体操を体験



百歳体操推進活動の経過を聞く



チームメンバーとの意見交換



個別参加状況表（星取表）



説明頂いた永本大作氏(右)と山口美佐江氏



住民に親しまれている「江川ふれあい号」



山口美佐江氏（中央）と視察メンバー

感想

- ①自分の体は自分で守る(健康面でも)という強い自助精神を感じた。
※会場まで自分で歩いて行き帰りするのも運動という言葉。
- ②「助け合いマップ」や安否確認は日常生活の中で自然に行われているので作成していない。集落特有の絆社会が生きている。
- ③「江川地域づくり協議会」を中心に広範な組織体制を構築し自主防災組織なども有効に機能していると推察された。

視察市町地区	赤穂市上仮屋地区	視察年月日	平成29年4月18日
組織・団体名	「わいがやサロン」	参加者	9名
概要	<p>・上仮屋地区は赤穂城の西部に位置する884世帯、約2000人が居住する自治会。マンションやアパートも多く、大学生、単身者など自治会に加入していない住民も多い。西播磨地域では都市型の自治会環境にある。内75歳以上の高齢者は約330人(16.5%)。</p> <p>・自治会、まちづくり推進委員会、地域福祉会、民生委員会など各種団体が連携して地域支え合い活動に取り組んでいる。</p>		
内容	<p>◆ 活動内容</p> <p>1)「わいがやサロン」は、平成26年から自治会員を対象に上仮屋公会堂で、月に1回10時から12時まで実施している。内容は、演芸、認知症防止ゲーム、防犯・交通安全講話、健康管理などメニューを変えて実施している。(参加費100円)</p> <p>2)昼に軽食を提供しているが食中毒防止の為、市販品を使っている。</p> <p>3)高齢者見守り活動は、「わいがやサロン」に不参加であれば個別訪問し、安否確認を行っている。</p> <p>4)「わいがやサロン」とは別に「助け合いサロン」も活動しており、運営規約、組織体制は整備されているが、余り活用されていない。「助け合い」のニーズはあるが、近所であるからこそプライベートな部分を知られたくない、という裏腹な心理もあり「シルバー人材センター」や業者に委託して割り切る方もある。</p>		



今月誕生日を迎える方を紹介(拍手)☺



「音遊びボランティア」の皆さん



指遊び歌を同時に行い「認知症予防」



音遊びの手作り「楽器」



ベルを使った合奏？にチャレンジ！



大成功😊です！



歌にあわせて楽しく仲良く(^.^♪



上仮屋「わいがやサロン」活動について拝聴



上仮屋「わいがやサロン」の皆さんと意見交換



前列中央 (左) わいがやサロン 魚住代表代理
(右) 大西自治会長

感想

今期の視察地区の中では最も都市的な地区。大学生など独身居住者も多く自治会として全体を掌握する事は不可能な状態。その中であって「相互に助け合える環境づくり」を模索しているように感じた。

視察市町地区	上郡町鞍居地区	視察年月日	平成29年5月17日
組織・団体名	「鞍居地区ふるさと村づくり協議会」	参加者	7名
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・鞍居地区は上郡町の北東部、播磨科学公園都市に隣接し、千種川の支流、鞍居川沿いの自然豊かな歴史ある地域。19自治会、450世帯、1205人が居住し高齢化率は32%。 ・平成26年、金出地ダム工事再開を機に「鞍居地区ふるさと村づくり協議会」を設立した。 ・協議会は会員制で正会員239人(地域外20人)で構成されている。 		
内容	<p>◆ 活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「鞍居地区ふるさと村づくり協議会」の運営組織は①総務・広報部会②生産・交流部会③里山・観光部会④福祉・スポーツ部会で構成され活発に活動している。 2) 広報活動として「ふるさと村づくり協議会だより」を月に1回全戸配布。 3) 鞍居地区公民館で「ふれあい喫茶」を毎月第1、3金曜日午前中実施し、地域の情報交換、安否確認の場としている。(子供、地域外の方の参加も可能) 4) 上郡町特産のモロヘイヤを鞍居地区産に特化した商品開発(ビン詰め粉末)を生産、加工、出荷している。「野桃(クライ桃)」を活かした商品化を目指している。 5) 金出地ダム自然植物公園や鞍居川復活プロジェクト事業の推進。希少植物(オチ藤、マヤ蘭など)の保護活動推進中。 		



鞍居地区公民館 (旧鞍居幼稚園)



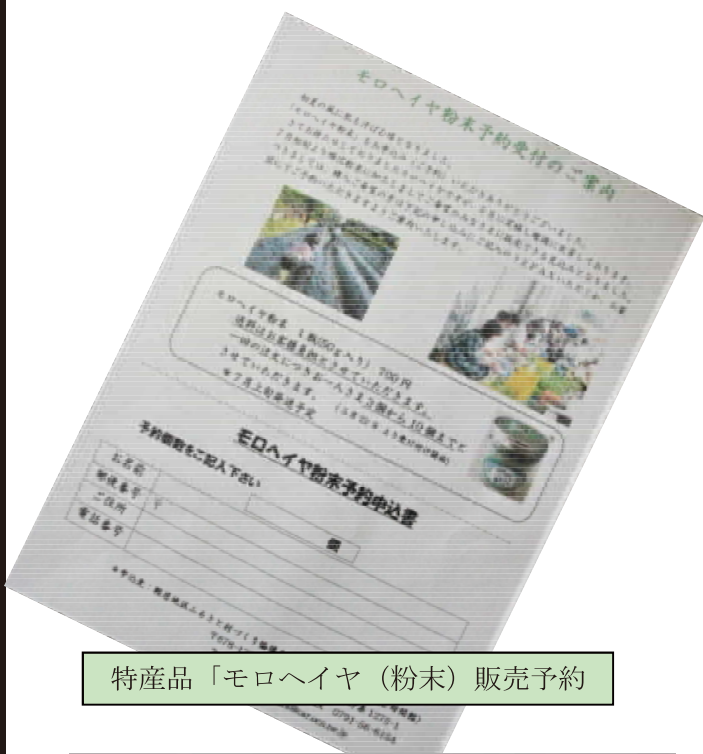
自治会役員の皆さんから活動内容を拝聴



金出地ダム周辺自然環境の紹介を拝聴



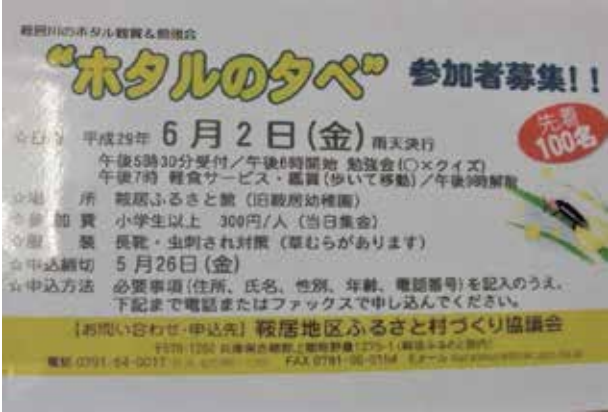
河井会長による説明



特産品「モロヘイヤ（粉末）販売予約



小林副会長からの説明



各種「事業計画」掲示板



「ふれあい喫茶」参加者への手作りプレゼント



前列（左）小林、岸田副会長（中央）河井会長

感想

- ①「鞍居地区ふるさと村づくり協議会」を中心として、農産物のブランド化と金出地ダム、鞍居川流域の自然環境を活かした人呼び込む活動を行い、事業化する事で地域活性化に取り組まれている。
- ②「ふれあい喫茶」やモロヘイヤの生産等を通じて、地域情報の交換や安否確認の場としており、地域ぐるみでの見守りがなされている。

視察市町地区	太子町阿曾地区	視察年月日	平成29年7月14日
組織・団体名	「阿曾ふれあいサロン」	参加者	5名
概要	<p>・阿曾地区は太子町の西部、林田川の肥沃な土地に恵まれ古くから開けた歴史ある地域。長年、農業振興地域に指定されていた為、大規模な宅地造成は行われず転入者も少ない。</p> <p>・119戸、301人が居住し高齢化率約40%。空き家率10%、耕作放棄田も増加している。</p> <p>・国道2号線に隣接し比較的、病院や学校、商業施設にも近く緊迫した不便さは感じない。</p>		
内容	<p>◆ 活動内容 「阿曾ふれあいサロン」は奇数月の第2金曜日、10時から昼食をはさみ13時頃まで演芸、認知症防止ゲーム、防犯・交通安全講話、健康管理など実施している。(弁当400円)</p> <p>◆ 農地を活用した年間行事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)「レンゲまつり」(4月29日)／休耕田を利用し、子供会、老人クラブ合同で実施している。ミニSL乗車(無料)は子供も大人も楽しみにしている。 2)「田植体験、収穫体験、試食体験」(6月中～11月)／斑鳩小学校の児童を対象に農業を体験し学習する場として協力している。 3)「ジャガイモ・サツマイモ収穫祭」(6月末)／ジャガイモ、サツマイモの収穫を子供達が行う。 4)「コスモスまつり」(11月初旬)／休耕田を利用しコスモス畑(50㍍)で三世代交流事業として幼稚園児も参加。ミニ運動会など実施する。 5)「阿曾子供教室」毎週水曜日、公民館で地区の子供達(11人)の宿題やゲーム等の世話をしている。その他、5月「花まつり」、8月「カラオケ大会」を行い顔と名前を知る活動を行っている。 		



太子町社会福祉協議会の稲村氏による講話



「笑い」を誘うレク・ゲームの時間



参加者全員で笑いのゲーム



新聞拾い読み(西村氏)



地元食材を生かした弁当 (400円)



メンバーも一緒に美味しく頂きました😊



阿曾自治会役員の皆さんと意見交換



子供も大人も楽しみ！レンゲ祭りのミニSL



本日サロンに参加された皆さんと一緒に(^^♪



前列中央が北川自治会長、右下、田寺福祉副部長
後方右から田中老人クラブ会長、岡福祉部長

感想

阿曾地区では、豊かな田園地帯の特質を活かしたイベントを実施、自治会など地域団体が積極的に住民と関わる事で地域の子供から高齢者まで見守る仕組みが日常的に構築されていると感じた。

■ まとめ

私たちは平成28年12月から約7カ月かけて、西播磨地域の全市町で積極的に高齢者見守りや助け合い活動を実践している代表的な団体やグループを訪問し、取り組み状況をお聞きしました。今回の視察を通じて感じた事を記して纏めとさせていただきます。

- 1) 西播磨地域は地理的環境も異なり、山間部と市街部では高齢化率にも差があり、取り組みも異なっている。孤立性の高い山間部ほど危機感も強く活動も活発に行われている。
- 2) 視察訪問した地区はリーダーが健全な危機意識を持ち使命感をもって積極的に活動されている。
- 3) 地域で活動されているリーダー、世話役が高齢化し、活動の担い手となる後継者が少なくなり、将来、活動が停滞する可能性を感じた。
- 4) 助け合いの組織や規約を作っても、実際に利用、活用する住民がいない。組織の形骸化を招いている所も見受けられた。
- 5) 現実には、幾ら呼び掛けても参加されない方もあり、個人差がある事も分かった。
- 6) 近隣の方に助けてほしい。助けられて良かったと思う反面、個人情報を知られてしまった。という裏腹な心理もある事がわかった。
- 7) 活動のために必要な「運営資金」が足りない。会費だけでは十分な活動が出来にくい事も理解した。

編集：第8期西播磨地域ビジョン委員会
生活安全推進チーム編集員

チームリーダー	田野本 満男
サブリーダー	坂元 淳
サブリーダー	萩原 芳一
	赤木 和雄
	嶋澤 清美
	西側 禎男
	森下 高明
	遠入 宏昭
	原井 誠



西播磨地域ビジョン委員会 事務局
兵庫県西播磨県民局 県民交流室 県民活動支援課

場所：〒678-1205 兵庫県赤穂郡上郡町光都 2-25
TEL：0791-58-2115 FAX：0791-58-0523